

閉 会 挨 拶

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター・副センター長
加賀爪 敏明

本日は7人の方々、演者の方々から報告をいただきました。プランクトン、ユスリカ、水草、ジェオスミンの話、耕耘の試験の話、諏訪湖での生態系の変化のお話、将来予測に関わるような海外の湖沼のお話も伺いました。大変幅広い内容で、いずれも興味深かったんですが、時間の関係で短い時間しか各演者に差し上げられなかったこと、非常に残念だったと思います。我々、案内申し上げましたのは非常に短い期間でお願いしましたので、スケジュールの調整とか大変ご無理を申し上げたと思います。大変ありがとうございました。

今日、休憩の段階で参加者87名ということで、我々アナウンスをして、当日までの期間短かったのに、大変このテーマについては皆さん関心が高いということではないかというふうに思います。この十数年間、南湖の様子というのは、非常に生態系の変化、レジームシフトが起こっているのではないかという状況、すごいものがあるわけであり

ます。この先がどうなっていくのかという運命予測、このテーマは滋賀県にとっても大変重要な保全上の政策課題の一つというふうに思っています。

センターでは3年毎の中期計画で業務を進めておりますが、次の23年から始めます中期の計画の中に、まさに今日のテーマを入れるべきではないかというような方向で検討しております。博物館でありますとか県立大学、それら他の機関の協力を得て実施するということになれば、どうかよろしくお願ひしたいと思います。このような報告会の機会、当然、来年以降も今テーマに関わってやれるのではないかと思います。皆様にはご案内を差し上げようと思ひますので、その折には引き続きご参加いただひて、いろんご意見を交換していきたくと思ひます。

本日は寒い中、たくさんお集まりいただきまして、熱心に最後までお聞きいただきまして、ご参加いただきましてありがとうございました。心より御礼を申し上げます。